
色々雑談部屋

紀葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色々雑談部屋

【Nコード】

N8862Y

【作者名】

紀葉

【あらすじ】

紀葉とドンキーが色々雑談します。

質問に答えたり、ゲストを招くこともあるかも？

リクエストも受付中！

初めに（前書き）

とりあえず説明をば。

初めに

紀葉「どうもこんにちは。『普通で普通じゃない日常』の主人公であり、同作品で作者の一番のお気に入りキャラの八木紀葉です。」

ドンキー「ドンキーコングシリーズの主人公で、作者の嫁を超越した何かのドンキーコングです。」

紀葉「えーっとこれはですね、私達がいろいろお話したり質問に答えるという趣旨のものなんですけどね…。」

ドンキー「この企画長く続きそうにないな。」

紀葉「そういうこと言うなよ…。」

ドンキー「で、今回は何するんだ？」

紀葉「ちよつと募集したいものを言うよ。」

・質問

作者についてでも、キャラについてでも構いません。

・意見

どんな意見でもおkです。

・リクエスト

何か書いてほしいものがあれば。

紀葉「こんなもんか。」

ドンキー「需要あるのか？」

紀葉「言うな。とりあえず、何かあればこの感想に送ってください。」

ドンキー「まあ無くても何かしら書くから大丈夫だけだな。」

紀葉「では今回はこれで。さよーならー。」

初めに（後書き）

ご意見、待っています！

第1回(前書き)

ドンキー「おい紀葉、本番…あれ?どこ行った?」

紀葉「ばあ!」

ドンキー「うわっ!ビブルワァ!」

紀葉「これがホントのびっくりドンキーwww」

第1回

紀葉「どうも」。紀葉です。」

ドンキー「ドンキーです。」

紀葉「さっそくだが質問に答えよう!」

ドンキー「来たのか!？」

紀葉「来たよ。」

ドンキー「マジで?」

紀葉「マジです。ではさっそく…カルピスフロートさんからドンキーに質問。」

ドンキー「俺?」

紀葉「作者とバナナならどっちが好き?とのことだ。」

ドンキー「バナナに決まってるだろ」K。」

紀葉「ですよねww」

作者涙目。

ドンキー「紀葉ならちよっと悩んだかも…。」

紀葉「へっ?」

ドンキー「でもバナナ。」

紀葉「やっぱりな…。まあ次の質問行くぞ。」

ドンキー「まだあるのか…。」

紀葉「うん。阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「作者にか。」

紀葉「なんで『普通で普通じゃない日常』を書こうと思った?とのことだ。」

ドンキー「なんか理由あるのか…?」

紀葉「作者のコメント。『実は中1の頃から普通(r yみたいな話を脳内で繰り返し広げていて、小説家になろうを見つけているんな人の小説を読んで、せっかくだからこの物語を小説にしちゃうか!というノリで書き始めました。ちなみに、最初は紀葉、千樹、杉助、桜太郎、百合の五人で行こうとしてました。』…とのこと。」

ドンキー「中1なのに中2病か。」

紀葉「誰うまwwwよし、次ー!」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「また作者か…。」

紀葉「リリカルなのはは知ってますか？知ってたらお気に入りキャラは誰ですか？と…。」

ドンキー「あのアニメか…。」

紀葉「作者のコメント。『リリカルなのはは知ってますよ。まあニコニコから得た知識が六割ですけどねwwお気に入りキャラはなのはです。ちなみに嫌いなのはもちろんクソ赤帽ですwww』とのこと。」

ドンキー「クソ赤帽ってヴィータのことが。確かにあいつ逃走中とかで問題行動起こしまくりだもんな。」

紀葉「ホントだよね…。死ねばいいのに…。」

ドンキー「まだあるか？質問。」

紀葉「うん。しらさんから作者に質問。」

ドンキー「作者への質問多いな！」

紀葉「スマブラメンバーで一番好きなキャラ…はドンキーだと思うので、一番嫌いなキャラは？だって。」

ドンキー「俺のこと好きって言うわりには俺のことあんまり使っていないだろ作者。」

紀葉「作者曰わく、パワータイプや重量級のキャラは使いづらいんだった。」

ドンキー「練習しろよ!」

紀葉「まあそれはおいといて。」

ドンキー「おいとくのかよ!?!」

紀葉「作者のコメント。『ガノンドロフです。すごい使いづらい。使いたくもない。見た目も好きになれない。リアルなおっさんは基本的に全員そうだけ。あと亜空のあれ見てもただの外道だし。悪いイメージばかり。』…らしい。」

ドンキー「俺もガノンの野郎は嫌いだが。亜空の使者の件でロボットの間際に亜空爆弾を無理やり起動させたり、ロボットを攻撃させたり、ロボットかわいそうってもんじゃなかったぜ…。」

紀葉「ドンキー…。」

ドンキー「事件の後ボコボコにしてやったけどな。」

紀葉「あ、やっぱり?」

ドンキー「そりゃそうだ。」

紀葉「ふーん…おっと、そろそろ時間だね。」

ドンキー「おお、今回はここまでか。」

紀葉「まだまだ質問受け付けてますよ！」

ドンキー「作者、俺、紀葉以外にでもおkです。」

紀葉「それでは皆さん、ご機嫌よう！さよーならー！」

第1回（後書き）

予想以上にたくさん来て良かったです。

第2回(前書き)

紀葉「ちわーっ！三河屋です！」

ドンキー「あらサブちゃん。」

紀葉「…普通逆だよなw」

ドンキー「てかなんだよこのコントw」

第2回

紀葉「えー、早くも二回目です！今回も三度の飯よりNが好きな私紀葉と！」

ドンキー「任天堂のゴリラ代表、ドンキーでお送りします。」

紀葉「ゴリラ代表ww確かにww」

ドンキー「任天堂のゴリラといえば俺だろ。」

紀葉「まあそうだねwwではさっそく質問に移りたいと思います！」

ドンキー「ガンガンいくぜ！」

紀葉「阪神虎之介さんからドンキーに3つ質問。」

ドンキー「3つ!？」

紀葉「まず1つ目。バナナ以外で好きなものはある？」

ドンキー「バナナ以外か…。そうだな、みんなでレースしたり乱闘したりすることかな。」

紀葉「みんなと競い合うことが好きなんだね。」

ドンキー「おう。」

紀葉「じゃあ2つ目。今まで出たことがあるゲーム以外で出たいゲ

ームは？」

ドンキー「うん…。思いつかない…。」

紀葉「マリオの本編とかは？」

ドンキー「無理だしどっちかっていうと出たくない。自分の分だけでいっぱいいっぱいだからな…。」

紀葉「そうか…。ちなみに作者は今出てるゲームでも十分ドンキーを見れるからでほしいゲームは特に無いらしいよ。」

ドンキー「まあそうだろうな。」

紀葉「じゃあ3つ目。阪神と読売どっち好き？」

ドンキー「…阪神と読売ってなんだ？」

紀葉「…ああ、そつちには阪神と読売無いんだね…。野球チームのことなんだけどさあ…。」

ドンキー「野球チームか…。俺野球チームでキャプテンになったことあるぜ。」

紀葉「マリオ野球ですね、わかります。ちなみに作者はほとんど野球を見ないらしい。」

ドンキー「どうでもいいな。」

紀葉「そうだね。じゃあ次はMR・ホースさんから作者に2つ質問。

「

ドンキー「やっぱり作者への質問多いな…。」

紀葉「1つ目。けいおん！のキャラで誰が好き？」

ドンキー「あー…あのほのぼのしてるやつか…。」

紀葉「作者は唯が好きらしい。表情が可愛いからって言った。」

ドンキー「表情か…。」

紀葉「表情です。じゃあ2つ目。魔法少女まどか マギカのキャラで誰が好き？」

ドンキー「もう何も怖くない！」

紀葉「おいやめる。作者はなんとなくまどかが好きらしい。」

ドンキー「なんとなくかよ…。」

紀葉「そこまで詳しいわけじゃないらしいからな、作者も。はい次。」

ドンキー「ふい。」

紀葉「りゅーとさんから作者に2つ質問。」

ドンキー「俺らに質問しても全然いいのに…。」

紀葉「1つ目。スマブラで好きなトリオはありますか？」

ドンキー「トリオか…色々あるよな。」

紀葉「作者に聞いたら、マリオ、ドンキー、ヨッシーのトリオと、カービィ、メタナイト、デデデのトリオが好きらしい。」

ドンキー「なるほど。」

紀葉「あとトリオじゃないけど、ドンキー、ディディー、ファルコン、オリマーの4人が好きだとも言ってたな。」

ドンキー「やっぱ俺がらみ多いな…。」

紀葉「それからスマブラじゃないけど、ドンキー、ディディー、ラドンキーのトリオが超好きって…。」

ドンキー「なんで言うんだよ…。」

紀葉「言いたかったんだろうよ。よし2つ目。」

ドンキー「はあ…。」

紀葉「トイレのドアを開けたら、作者が『和式トイレとドンキーは俺の嫁ー!』と言いながら襲いかかってきました。どうすればいいですか？」

ドンキー「なwんwじゃwそwりやw w w」

紀葉「作者のコメント。『殴ればいいと思うよ。あと言っとききます

けどりゅーとさん、私洋式派です。それとドンキーは嫁じゃなくて嫁を超越した何かです。』…だって。」

ドンキー「まるで意味がわからんぞ！」

紀葉「そんなこんなでもう時間だ。」

ドンキー「最後意味不なまま終わった…。」

紀葉「ではまた次回。シーユーアゲイン！」

第2回(後書き)

やってやった…！俺はやってやったぞおおお！

第3回（前書き）

紀葉「質問見落とすとか作者最近だらしねえな！」
ごめんなさい…。

第3回

紀葉「早くも三回目です。」

ドンキー「感謝の極み。」

紀葉「今回もサクサク行きましょう!」

ドンキー「ほいさきた。」

紀葉「しらさんからドンキーに質問だ。」

ドンキー「k t k r!」

紀葉「ワリオが(しらさんの小説で)スマブラメンバーのこともべって言ってたけどそれでもガノンが一番嫌いなのは変わらない?」

ドンキー「ん〜…そうだな、変わらない。」

紀葉「ほう、それは何故?」

ドンキー「だってしらさんのとこの話だろ?」

紀葉「あ、確かにWじゃあこっちで言ったとしたら?」

ドンキー「ワリオがそういうこと言うのは予想できるぞ。だから別にそんな気にならねえよ。」

紀葉「え〜…そうなの？」

ドンキー「てかワリオはさ、たまにニンニクを他の奴に分けようとするんだよ。多分厚意で。いらねえけど。ガノンは全くそういうこともしないからな…。」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ次、しらさんから私とドンキーに質問。」

ドンキー「お、二人にか。」

紀葉「逃走中にでて逃走成功したら何に使う？ただし、ドンキーはバナナ以外で。」

ドンキー「バナナ以外!？」

紀葉「私は貯金かな。やっぱり少しでも生活を楽にしたいし…。」

ドンキー「うーん…あ、わかった!携帯買っ!」

紀葉「…なんで？」

ドンキー「マリオ達と連絡とるのが楽になるから。」

紀葉「なるほど…でも携帯使いこなせるのか？」

ドンキー「大丈夫だ、問題ない。ディディーに手伝ってもらっから。」

紀葉「ああ、そっすか…。じゃあ次いくよ。」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「やっぱりか。」

紀葉「ニコ厨になったきっかけは？」

ドンキー「…きっかけとかあるのかよ…。」

紀葉「作者のコメント。『ネサフしてたらニコ動見つけて、見始めて、そのうちニコ厨になりますたwww』らしい。」

ドンキー「…ネサフ？」

紀葉「ネットサーフィンの略。ようするにインターネット上のサイトを回って回るんだよ。」

ドンキー「へ〜…。」

紀葉「じゃあ次はizumiさんから作者に質問。」

ドンキー「作者ってこう見ると謎だらけに見える。」

紀葉「ニコニコで一番好きなネタは？」

ドンキー「え、好きなネタ？」

紀葉「作者のコメント。『一番好きとか決められないですよwww』」

でも最近よく使うのはシャダイネタかな。大丈夫だ、問題ない。らしい。」

ドンキー「一番いい補足を頼む。」

紀葉「ようするに作者はニコニコ全体が好きなんだよ。」

ドンキー「そうかあ……。ん？そろそろ時間じゃね？」

紀葉「おお、ホントだ。じゃあみなさん、また会いまっしょい。アディオス！」

第3回（後書き）

今後は見落とさないようにする！

第4回(前書き)

紀葉「パイの実超うめえ W W W」
ドンキー「バナナ超うめえ W W W」

第4回

紀葉「質問たくさん来るねー。」

ドンキー「そつだなー。」

紀葉「まあ答えよう。」

ドンキー「おう。」

紀葉「竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「またかよちくしょう…。くやしいのうwwくやしいのうww」

紀葉「プリキュアで一番好きなキャラと一番嫌いなキャラは？」

ドンキー「両方聞くのか。」

紀葉「作者のコメント。『プリキュア知ってるんですけど、知識としてはまどマギより薄いです。なので特に好きなキャラはいないんですけど、竜斗さんの影響でくるみは嫌いです。』だとさ。」

ドンキー「あ…プリキュアは俺もよくわからん。」

紀葉「私も…。じゃあ次行こうか。」

ドンキー「どんな質問くるんだ…。」

紀葉「りゅーとさんからドンキーに3つ質問。」

ドンキー「おおー！」

紀葉「1つ目。スマブラに参戦になったとき思ったことは？」

俺設定入ります。ご注意ください。

ドンキー「うーん…。最初は無理やり来させられたんだよね…。だからすぐに帰してほしかったんだよ。」

紀葉「そうなの！？…えと…それで…？」

ドンキー「でもDX以降はいろんな奴と戦えることにワクワクしたぜ。…あゝ早くスマブラ新作出ないかな？」

紀葉「そうなんだ…。じゃあ2つ目行くよ。」

ドンキー「ドンとこいー！」

紀葉「学校の帰り道でネギを振り回すゴルゴに遭遇しました。助けてください。」

ドンキー「！？」

紀葉「どうした？早く答えろよ。」

ドンキー「えーと…じゃあ後でそいつしばいておくので…。」

紀葉「うむ。じゃあ3つ目な。」

ディティールコングレーシングの話です。

紀葉「うーん…遊戯王の王様（闇遊戯）かな？髪型どうなってんのか見たい。」

ドンキー「理由それかよww」

紀葉「いいじゃん、すごいじゃん、さかいじゃん。」

ドンキー「古くね？」

紀葉「気にするな。2つ目。一番行きたいアニメの世界はある？」

ドンキー「えー…アニメってよくわかんねーよ…。」

紀葉「そっか。私は遊戯王の世界だな。髪型変な人がどんくらいいるのか見たい。」

ドンキー「だから理由ww」

紀葉「うえwwあ、時間だ。」

ドンキー「あー終わった…疲れた…。」

紀葉「じゃあ今回はここまで。チャオチャオ！」

第4回（後書き）

そのあと。

ドンキー「なあディディー…。」

ディディー「んあ？何？」

ドンキー「パピーコパピーコパピーコパピーコパピーコパピーコパピーコパピーコ
パピーコパピーコ！パピーコ！」

ディディー「！？」

ドンキー「…この意味わかるか？」

ディディー「…わけがわからないよ…。」

第5回(前書き)

紀葉「相手のゴールにシュウウウウ!!」
ドンキー「超!エキサイティン!!」

第5回

紀葉「WRYYYYY!!最高にハイってやつだ!」

ドンキー「いきなりどうしたww」

紀葉「どうもしないよ。」

ドンキー「そーなのかー…。」

紀葉「じゃさつそく…阪神虎之介さんから作者に質問。」

ドンキー「うい。」

紀葉「『とある魔術の禁書目録』で好きなキャラは?」

ドンキー「(…?)」

紀葉「ドンキーはわからないか…。作者は『とあるはよくわかんないです…。』って言ってたから特に好きなキャラはいないんじゃないかな。」

ドンキー「(…?)そうかそうか。」

紀葉「シヨボーンが抜けきってないぞwwまあ次。阪神虎之介さんからドンキーに4つ質問。」

ドンキー「多っ!…!」

紀葉「1つ目。品種改良で赤くなったスイカ味のバナナと普通に怪しいバナナならどっち食べる？」

ドンキー「なんだよその質問…。」

紀葉「で、どっち？」

ドンキー「じゃあ赤いバナナ！」

紀葉「やっぱり怪しいバナナは食べないか。」

ドンキー「うん。てか赤いバナナは64のときに見たことあるぜ。」

紀葉「デイデ이의やつか…。」

ドンキー「そうそう。」

紀葉「じゃあ2つ目。ドラえもんのお秘密道具で一番好きなものは？」

ドンキー「え？うん…タイム風呂敷かな。」

紀葉「…なんで？タケコプターとかは？」

ドンキー「たるジェットで空は飛べるぜ。」

紀葉「うーん…まあいいや。3つ目。アフガニスタンと北朝鮮ならどっち行く？」

ドンキー「(。(。」

紀葉「…まあどっちも嫌だよね。」

ドンキー「(´・`・´) …おっ。」

紀葉「じゃあ4つ目。ENEOSのエネゴリくんに会ったことある?」

ドンキー「ねーよWWW」

紀葉「ですよねーWWW次はちょっと時期が早い質問だな…。」

ドンキー「(´・`・´)?」

紀葉「MR・ホースさんから作者に2つ質問。」

ドンキー「(´・`・´) ほう。」

紀葉「1つ目。バレンタインにはもちろんドンキーにチョコバナナをプレゼントしますか?」

ドンキー「ホントに早いな!」

紀葉「作者のコメント。『もちのろんじゃないですかWWW』…ドンキー、どっと思っ?」

ドンキー「もらえるもんはもらっ主義だ。」

紀葉「え? ああ、そう。」

ドンキー「曲のタイトルになってるぞWWW」

紀葉「気にするな！じゃあ2つ目。男性作者にチヨコをあげるなら誰がいいですか？」

ドンキー「そんなこと聞くのかよ…。」

紀葉「作者のコメント。『誰か一人選ぶなら竜斗さんですかね。結構お世話になっているので。』…なるほどなあ。」

ドンキー「竜斗さんって確かDK64の小説書いてるよな？」

紀葉「そうそう。それ見て一瞬で気に入ったらしい。それと逃走中に出させてもらったりもしたし…。」

ドンキー「竜斗さんの小説見て自分も書いていこうって思ったんだよな。」

紀葉「そうなんだよ。それじゃあ次、MR・ホースさんからドンキーに質問。」

ドンキー「なんだ？」

紀葉「作者からチヨコバナナをもらったらホワイトデーのお返しは何贈る？」

ドンキー「あ…じゃあバナナ一房。」

紀葉「結構いいもん贈るんだなw」

ドンキー「だってよ…。」

紀葉「え？」

俺設定入りまーす。

ドンキー「俺バレンタインなんて毎年義理チョコ一個しかもらえねえんだよ！」

紀葉「え、ちょ、義理かどうかわかんないじゃん！あと誰から？」

ドンキー「キャンディーからだよ。全員に同じもの配ってたんだ、義理じゃなかったらなんなんだ？」

紀葉「…ドンキーはどう思ってたの？」

ドンキー「キャンディーのことか？普通に仲間だけど。」

紀葉「ナエルーワ…。」

ドンキー「知らんがな。」

紀葉「えーと…ディクシーはやっぱりディディーにあげてんだよね？」

ドンキー「そうだぜ。リア充爆発しろ畜生。」

紀葉「やっぱりイチャイチャしてるのは良いよね…。相手のことだけを一心に…。」

ドンキー「お前何言ってるの？」

紀葉「あ、タイニーは誰にあげてんの？」

ドンキー「タイニーは…ランキーとチャンキーに。」

紀葉「本命は！？どっち！？」

ドンキー「なんでそんな興奮してるんだよ…ランキーのほうだ。」

紀葉「もしか2人はデキちゃってたり！？」

ドンキー「してない。」

紀葉「(´・`・´)シヨボーン…。」

ドンキー「両想いではあるんだけど」

紀葉「うほおおお！？それはいわゆるすれ違いだな！王道中の王道！
！イイ！萌える！！」

ドンキー「聞け。タイニーはランキーが自分のこと好きなことに気づいてるよ。ランキーは気づいてない。」

紀葉「そうか…いつか告白してくるのを待ってるんだな…イイ！」

ドンキー「でもランキーへたれだからなあ…。いつするかわかんねーよ。」

紀葉「今後の2人に期待だな…ンフフフWWW」

ドンキー「…猿でもいいのかよ…。」

紀葉「脳内で擬人化するから問題ない！」

ドンキー「……。」「（気持ち悪い……。）」

紀葉「おっと！話しすぎた！」

ドンキー「ホントだ。」

紀葉「じゃあ次回もお楽しみに。ドーンミスィットウ！」

第5回（後書き）

完全に私の趣味です。
反省も後悔もしてません。

第6回（前書き）

紀葉「そんな装備で大丈夫か？」
ドンキー「大丈夫だ、問題ない。」

第6回

紀葉「ネタ系の質問最近多いな。」

ドンキー「正直疲れた…。」

紀葉「頑張れって！北京だって頑張ってるんだから！」

ドンキー「炎の妖精乙。」

紀葉「ともかく行くぞ。りゅーとさんから私とドンキーに3つ質問。」

ドンキー「あ、ちょっと楽だ…。」

紀葉「まず1つ目。ネタ系の質問ぶち込んでおk？」

ドンキー「俺はもうヤダよ！！」

紀葉「私もネタ系の質問答えたいけどなあ…。あと作者が『ドンキーと紀葉と私以外に質問が来ない…。』って嘆いてたし。」

ドンキー「他のやつらにも質問してください。マジで。俺が疲れる。」

紀葉「まあ次の質問…んん！？」

ドンキー「どした？」

紀葉「読めない…。」

ドンキー「どれどれ…なあにこれえ。何語だよ？」

紀葉「ヒンディー語だ。参ったな…ヒンディー語とかわかんないよ…。」

つ翻訳メモ

紀葉「あ、これ翻訳したやつか？」

ドンキー「早く渡せよ…。」

紀葉「じゃあ読むぞ。えーと…それはかなりシャツサイズ猿がないです。ブラ。」

ドンキー「なるほど、全くわからん。」

紀葉「直訳しやがったな…。わかんないからほっとこう。」

ドンキー「そうだな。」

紀葉「3つ目。前回のパピコ語の意味は分かりましたか？」

ドンキー「分かるわけねーだろ！」

紀葉「やっぱりな…。コングクルーの面々に聞いてただろ。」

ドンキー「なんで知ってんだよ!？」

紀葉「なんかさあ、ディディーとかランキーとかからパピーコパピーコ（ry）って何？っていう内容の質問が…。」

ドンキー「そ、そうなのか…。」

紀葉「それで、訳は『お尻にロケット花火を刺すと飛べるって本当ですか？』らしい。」

ドンキー「…なんかいろいろおかしい…。」

紀葉「結論から言うと飛べません。マネしないでください。」

ドンキー「しねーよwww」

紀葉「次行くよー。竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「結構たくさん答えたのにまだ作者に質問あるのか…。」

紀葉「ドンキーを好きになっただきっかけはなんですか？」

ドンキー「そっぴや俺のことは最近好きになっただか言っただな…。」

活動報告参照。

紀葉「作者のコメント。『詳しいことは言えませんが、ネサフがきっかけです。』…ああ…。」

ドンキー「ネサフかよ。」

紀葉「おつと時間だ。」

ドンキー「うええ!?!」

紀葉「じゃあ次回も見てくださいね!じゃんけんぽん!(パー)う
ふふふふふ!」

第6回（後書き）

そのあと。

ランキー「覚悟できとるんやろつな…ドンキー…。」

ドンキー「ま、待て！話せろ」

ランキー「問答無用やゴラアアアア…！」

ドンキー「ギャアアアアア…！」

タイニー「…。」

チャンキー「タイニー、どうしたウツホ？」

タイニー「え？…ああ、あのね…ランキー、ちゃんと話聞いてなかったのかなって…。」

チャンキー「（…）？」

第7回（前書き）

紀葉「ドンキーは犠牲になったのだ…。」

第7回

紀葉「えー、前回ドンキーがランキーにフルボッコにされたため、今回ドンキーはいません（自宅療養中）。というわけで、代わりの人を呼んでいます。どうぞ！」

カービィ「ども、ピンクの悪魔ことカービィです。」

紀葉「自覚してるんだWWW」

カービィ「そうだよ。」

紀葉「どつちかっていうと化け物だと思うけど…。」

カービィ「化け物…？違う…。僕は悪魔だ…！」

紀葉「やっぱり言ったWWWまあ質問に答えていくよ。」

カービィ「おk、把握。」

紀葉「それじゃあ、しらさんから私とドンキーに2つ質問。」

カービィ「今回ドンキーいないから、僕が代わりに伝えるよ。」

紀葉「1つ目。マリオとルイージ、どつちが好き？」

カービィ「ドンキーは、『マリオだよ。マリオのほうが強いし、ルイージはビビリだし…マリオのほうが頼りになるからな。』って言うてたよ。僕もマリオのほうが好きだよ。強くてかっこいいから。」

紀葉「私もマリオだな。ルイージは臆病なイメージが…。」

カービィ「こっちの実際ルイージは臆病だよ。」

紀葉「やっぱり？じゃあ2つ目。マリオとワリオ、どっちが好き？」

カービィ「聞くまでもないでしょ…。ドンキーは『マリオに決まってるだろ！ルイージはまだしもなんでワリオと比べるんだよ！』って。当然僕もマリオのほうが好きだよ。」

紀葉「私も。ワリオはなんか好きになれない…。」

カービィ「激しく同意。」

紀葉「じゃあ次は、黄昏（TL）さんからドンキーに質問。」

カービィ「うん。」

紀葉「まだランキーの秘密知ってたりする？」

カービィ「ドンキーに聞いたら、『秘密っていうほどのもんじゃないと思うが、あいつ裁縫が得意なんだよ。尻のところにパッチワークあるだろ？あれ自分で縫ったらしいぜ。』って言った。」

紀葉「そうなの？意外だなあ…。」

カービィ「あまりにもつまらないから、僕いろいろ調べてきたんだ。」

紀葉「!？」

カービィ「そしたらさ、ひよろいこと気にしてるとか、いつもデイデーのイタズラの被害にあってるとか、でも素直にディクシーに愛情表現してるデイデー見て自分もタイニーにあんなふうにできたらなあ…って思ってるとか…。」

紀葉「それ以上は殺されるぞ!？」

カービィ「僕を誰だと思ってるの?」

紀葉「それ死亡フラグだから。ヤバいから。てか最後のほうはなんで分かるのさ。」

カービィ「ネスに協力してもらったんだよ。」

紀葉「なんて奴だあ…!」

カービィ「まだ質問あるよね?」

紀葉「うん…りゅーとさんからデイデーに4つ質問。初めて私とドンキーと作者以外にきたな!」

カービィ「デイデーにもちゃんと聞いてきたよ。」

紀葉「1つ目。スマブラに出ると聞いて思ったことは?」

やっぱ俺設定。

カービィ「X組は亜空の使者のときに無理やり来させられたから、

最初はすぐ帰りたかったみたいだよ。ディディーも例外じゃないよ。」

紀葉「そうなんだ…今は？」

カービィ「今は乱闘が楽しいってさ。勝数少ないけど。」

紀葉「あんま勝ててないのかwwじゃー次。亜空の使者でフォックスとファルコと一緒に行動してたけど、2人とは仲良いの？」

カービィ「うーん…2人ともそれなりに仲良いけど、マリオファミリー以外だとファルコンとかオリマーとかのほうが仲良いみたいだよ。」

紀葉「ふーん…。巷じゃ桃太郎トリオとか言われてるよね？」

カービィ「まあでもあんまり一緒にいるところは見ないけどね…。」

紀葉「そうかあ…じゃあ次行くよ。」

カービィ「アイサー。」

紀葉「パピーコパピコパピコパピコパピコー？」

カービィ「日本語でok。」

紀葉「こつという質問なんだよ…ディディーに聞いてきた？」

カービィ「まあ聞いてきたけどさ…。『日本語喋れ！』って怒鳴られた。」

紀葉「ドンキーに以前そういう質問きてディディーに興味聞いたみたいだから…イライラしたのかな。カービィはどう思う?」

カービィ「パピパピパーピコパピコパピコー。ってところかな。」

紀葉「…もう次行くよ。次の質問は写真の感想を言うものです。まずはこれを…。」

犬のウンコを踏んでありえない表情をするタブーの写真。

カービィ「これはWWWWひどいWWW」

紀葉「ホントだねWWWなんて言ってた?」

カービィ「『感想聞く相手オイラじゃなくてもいいだろこれ!!』って。写真についてはノーコメントだった。」

紀葉「まあ何も言いたくないだろうねWWW」

カービィ「ちなみにドンキーに見せたら、『これ撮った奴ある意味天才じゃね?』って言った。」

紀葉「あ、確かにWああそれと、前回のヒンディー語の訳が送られてきたよ。」

カービィ「それはシャツ(r)yって奴だよな?」

紀葉「そう。正しいのは、『このお猿さん、シャツのサイズがかなり違います。ブラジャーに着替えてください。』だそうだ。」

カービー「ブラじゃないよー大胸筋サポーターだよー！」

紀葉「なんか懐かしいwwこのお猿さんってディディーかな？ドンキーはネクタイだけだし…。」

カービー「そうだと思うよ。ディディーに言ったら、『なんでブラジャーなの？馬鹿なの？死ぬの？てかサイズ合ってるし。』というふうにマジレスしてきた。」

紀葉「うわー…もっと気のきいたコメントなかったのかな？」

カービー「わかんない。てか時間だよ。」

紀葉「おおホントだ。それじゃあこの次もサービスサービスウ！」

第7回（後書き）

そのあと。

カービィ「結構面白かったな…。」

ポンポン

カービィ「ん？」クルッ

ランキー「（ ^ ^ ）」

カービィ「…！？な、なにをするきさまー！」

¥デデーンノ

第8回（前書き）

紀葉「おい、誰かカービィの居場所を知らんか？」
自宅療養中です。

第8回

紀葉「あー…ドンキーがまだ復帰できず…カービィも諸事情で出られないということ…：代わりの代わりを呼びました。ではどうぞ。」

マリオ「俺はマリオだ。よろしく！」

紀葉「うひょー！本物のマリオだ！あとでサインくれ！」

マリオ「OK、わかったよ。」

紀葉「それじゃあさっそく…：izumiさんから私とドンキーに3つ質問。」

マリオ「ドンキーの分は俺が代わりに答えるからな。」

紀葉「1つ目。ストレス解消のためにすることは？」

マリオ「ドンキーの場合はもっぱら乱闘だな。スマブラ以外だとスポーツとかだ。」

紀葉「そーなのかー。私はやっぱりゲームだな。」

マリオ「噂には聞いていたがここまでゲーム好きとは…。」

紀葉「サーセンwwじゃあ2つ目。オリキャラのことどう思うっ？」

マリオ「ドンキーに聞いてきたが、『紀葉はなんか変人だな。他の奴らは会ったことないから詳しいことはよくわからん。』だそうだ。」

「
紀葉「変人って…まあいいや。ちよつと私から見た普通（ryメン
バーをまとめてみたよ。」

千樹 ちよつと説教くさいお兄ちゃん

椀 美人な義姉

杉助 賑やかな奴

希華 仲の良い後輩

希菜 妹思いの良いお姉さん

希音 ヤンデレ怖い…

桜太郎 大親友

銀杏 兄弟仲良くね

百合 ぶつちやけ苦手

木 かなり気が合う

マリオ「ふむふむ…なるほど。」

紀葉「よし、3つ目。Sな人とMな人がやってきました。どうする
？」

紀葉「1つ目。カービイは何味ですか？」

マリオ「…カービイに聞いたら『塩味です。嘘です。自分じゃわかりません。』って言うって…その後ヨッシーが来て、『良かったら調べましょうか？』って言ったからとりあえず表面だけ舐めてもらったらトマトっぽい味がしたらしい…。」

紀葉「マジか…桃味かと思ったんだけどな…。」

マリオ「食おうとするのはおすすめでできないな。逆に食われる。」

紀葉「おお怖い怖いwwwじゃあ2つ目。一番好きな食べ物は何？」

マリオ「トマトらしい。カービイのところじゃマキシムトマトが全回復アイテムだからかな。」

紀葉「トマトばかり食ってるからトマト味なの？」

マリオ「知らんがな。」

紀葉「…3つ目。カービイの血は何色ですか？」

マリオ「赤だ。さっきの味の話のとき、カービイが気持ち悪いって言ってヨッシーが怒ってカービイを殴ったんだ。そのときなんか赤い液体が出て…。」

紀葉「普通に赤なんだ…。じゃあ4つ目。今まで出たことあるゲーム以外で出たいゲームは？」

マリオ「ああ、なんか俺のゲームに出たいってかなり言ってたな。」

ドラクエのキャラとかソニックが俺のゲームで共演できるのになんで自分ではできないんだって…。」

紀葉「ぶっちゃけFFとかいいからさ、もっとマリオキャラ出してよ。」

マリオ「そう言われても…。」

紀葉「うーん…まあ次。ドラえもんの秘密道具で好きなものは？」

マリオ「本人に聞いたらタイムマシンって言った。」

紀葉「そ…そっすか…。あ、時間。」

マリオ「おお、もう終わりか。」

紀葉「次回はどんな質問がくるのか…乞うご期待!」

第8回（後書き）

そのあと。

紀葉「念願のマリオのサインを手に入れたぞ！」

千樹「…。」

そう、関係ないね

殺してでも奪いとる

譲ってくれ、頼む！

紀葉「…欲しくないの？」

第9回(前書き)

ドンキー「帰ってきたぞー！」
紀葉「遅いぞ！」

第9回

紀葉「今回やっとドンキー復帰です。」

ドンキー「やっと戻ってこれた…。」

紀葉「災難だったな、ドンキーww」

ドンキー「今思えばお前があんなこと聞かなければ…。」

紀葉「フヒヒwwサーセンww」

ドンキー「(´・`・´)反省しろよ…。」

紀葉「まあまあ、質問答えるぞ。まずはりゅーとさん…。」

ドンキー「!?!」ゾワッ

紀葉「…のところのウルフから私とドンキーに質問。というよりはお願いかな?」

ドンキー「ビビルワァ!」

紀葉「お前失礼だぞwwえーとね…。『私はクリスマスでケーキを仲のいい子供に作るようになりました。私は料理は少ししますが、パーティーなどの本格的なのは難しいです。しかし、ケーキは種類が多く、どれを作るうか迷ってしまいます。お願いがありますが、お二人からアドバイスをお願いいたします。』」

ドンキー「…は？それウルフからなのか？」

紀葉「あ、さつき読み忘れたけど文の途中にかっこ書きで『フォックスとリンクとピーチの奴め、俺様に押し付けやがって…！』って書いてたよ。」

ドンキー「ウルフだwww礼儀良すぎクソワロタwww」

紀葉「違和感MAXwww誰てめwww」

ドンキー「…ふう、それでケーキか…。ならばバナナを入れるべきだ！」

紀葉「バカやるーう！！パイの実ケーキのほうがいいに決まってる！」

ドンキー「何を言うかお前は…バナナは譲れん！」

紀葉「あ、わかった！バナナとパイの実のケーキにすれば良いんだ！」

ドンキー「なん…だと…お前は天才か！？」

紀葉「これで大丈夫だな！」

ドンキー「解 決！」

作者が代わりに真面目に答えます。フルーツたっぷりのケーキとかは嫌いな人いないんじゃないですかね。個人的にクリームは普通の生クリームのほうがいいと思います。あとは気持ちです。愛情を

たっぷり注ぎましょう。

紀葉「それじゃあ次。りゅーとさんのところのトゥーンリンクから私とドンキーに…相談だな。これは。」

ドンキー「トゥーンから？」

紀葉「『僕からの相談があります！実は僕と僕の友達はクリスマスである人あげるプレゼントを考えています！その人はいつも僕達と遊んでくれる優しい人です。感謝の気持ちを込めて渡したいんだ！ドンキー、紀葉さん、協力してください！にゃあー！』」

ドンキー「にゃあーってwwにゃあーってww」

紀葉「完全に猫じゃねーかwww」

ドンキー「それでプレゼントか…じゃあバナナだな！」

紀葉「アホか！なんでクリスマスにバナナをもらわないといけないんだよ！」

ドンキー「なんだと…！？じゃあ他に何があるんだ！」

紀葉「NLの同人誌のほうがいいだろ！」

ドンキー「それこそ誰も喜ばねーよ…！」

紀葉「お前…馬鹿にしているのか？」

ドンキー「だってそうだろ…喜ぶのこく一部の人だけじゃねーか…。」

「
紀葉「よろしい、ならば戦争だ。」

ドンキー「俺と戦おうというのか…。勝てると思ってるのか？」

作者が以下略。大事なものは気持ちです。手作りのものをあげれば良いと思います。

紀葉「…ってこんなことしてる場合じゃないな。」

ドンキー「あー…確かに。」

紀葉「次。りゅうとさんのところのマリオからドンキーにお願い。」

ドンキー「おっ、なんだろう。」

紀葉「『ドンキー、マリオだ！お願いがあるけど、俺の護衛をしてくれ！理由は？理由は俺がルイーザのデイジーへのプレゼントをキノコタウンのミニゲームに全部使っただけだ！（どや顔）え？ゲームの結果？全部負けましたwwwてへぺろwwwだからドンキー、バナナをあげるから護衛をお願い。ちなみにルイーザはビームソード+ハンマー+ホームランバット装備&止めようとした奴8人を返り討ちにしました。これさ、謝るべき？しらばっくれるべき？』」

ドンキー「…謝れよ…。」

紀葉「謝っても許してくれないと思うよ。助ける？」

ドンキー「やだ！」

紀葉「ちょwwwおまwww」

ドンキー「バナナのために命は懸けられねえよ…だから代わりにこっちの(ゲームウオさんに喧嘩両成敗してもらおう)。」

紀葉「おいwwwスーパーマリオのマリオとルイージに死亡フラグがwww」

ドンキー「ルイージ落ち着かせて、マリオにも反省させるにはうってつけだろ。」

紀葉「マリオとルイージ逃げて超逃げてwwwじゃあ次。izumiさんからドンキーに2つ質問。」

ドンキー「へいへい。」

紀葉「今まで色々冒険したり乱闘したりしてるけど、今までで一番驚いたことは？」

ドンキー「うーん…スマブラに来てからさ、カービィのコピー能力とかソニックのありえない足の速さとか驚くことはたくさんあったけど、やっぱり一番は…。」

紀葉「一番は？」

ドンキー「ラーマの唾でマグマが一瞬にして水に変わったことだな。」

紀葉「…は？どついう意味？わけがわからないよ。」

ドンキー「そのままの意味だ。俺だっつてわかんねえよ…。」

紀葉「謎すぎる…。わかんないから次。スマブラに出てないキャラで一緒に乱闘したいのは？」

ドンキー「そうだな…バンジョーとカズーイかな。」

紀葉「レア社のあれか？他社枠としてだったら出れそうだな。」

ドンキー「出てほしいな…っと時間。」

紀葉「ありゃ、ホントだ。じゃあ今回はこれで。バイバーイ！」

第9回（後書き）

ラーマの睡がどろろのじろろのってのはDK64ネタです。

番外編 ヨッシーさん(前書き)

書きたかったのになんとなく書いた。

番外編 ヨッシーさん

ヨッシーは人に対する態度が人によってかなり違います。

例えば、ヨッシーが楽しみに取っておいたプリン（ポケモンじゃないよ）を誰かが食べてしまったとします。

そのときの対応がかなり違いますよ。

マリオファミリーを例に取って見てみましょう。

ヨッシー「あれ？僕のプリンがない……。いったい誰が……。あ。」

マリオの場合。

マリオ「おお、ヨッシー。どうした？」

ヨッシー「マリオさん……えーと……。」

マリオ「あ、もしかしてこれお前のだったのか！？すまん！食べてしまった……。」

ヨッシー「いや、大丈夫ですよ！プリンもマリオさんに食べられたら本望だと思うので！」

マリオ「え、いや、おま、本望って……。」

ピーチの場合。

ピーチ「あら、ヨッシー。どうしたの？」

ヨッシー「あー……。ピーチ姫……。」

ピーチ「…もしかしてこれあなたのだったかしら？ごめんなさい、食べちゃったわ…。」

ヨッシー「いや、大丈夫ですよ。コンビニで買えるものなんで。」

ピーチ「でも…。」

ヨッシー「大丈夫です。気にしないでください。」

ピーチ「そう…ていつかこれコンビニで買える割にはおいしいのね。」

ヨッシー「そうなんですよ。」

ドンキーの場合。

ドンキー「お、ヨッシーじゃん。どした？」

ヨッシー「ドンキーさん…それ僕のなんですけど。」

ドンキー「え、そうだったのか！？すまん！」

ヨッシー「別にいいですよ。コンビニで買えるんで。」

ドンキー「いやしかしだな…。」

ヨッシー「反省してるんだっいたらいいですよ。」

ドンキー「そ、そうか…。」

ルイージの場合。

ルイージ「あれ？どうしたのヨッシー？」

ヨッシー「ルイージさん、それ僕のです。」

ルイージ「あ、そうだったの…？ごめん、気づかなかった…。」

ヨッシー「ルイージさんに気づかなかったって言われると嫌な気分になるんですけど。」

ルイージ「え、酷くない？」

ヨッシー「まあ、プリンの方は別にいいですよ。安物なので。お似合いです。」

ルイージ「酷いや酷いや…。(、；、；)」「

ディディーの場合。

ディディー「ヨッシーだ。なんか用？」

ヨッシー「ディディーさん、それ僕のプリンです。」

ディディー「え！？嘘！？マジで！？」

ヨッシー「驚く前に謝罪してください。」

ディディー「サーセンWWW」「

ヨッシー「ちゃんと謝ってください。」（黒いオーラが出てる）

ディディー「…ごめんなさい。」

ヨッシー「よろしい。」

クッパの場合。

クッパ「おお、ヨッシーではないか。どうしたのだ？」

ヨッシー「クッパさん、それ僕のなんですけど。」

クッパ「何！？そうなのか！？すまないのだ！」

ヨッシー「この亀…。」

クッパ「M A T T E！あとで10個ぐらいプリンを買ってくる！
それでいいだろう！？」

ヨッシー「…わかりましたよ…全く…。」

ワリオの場合。

ワリオ「あ？なんか用かヨッシー！」

ヨッシー「おい、それ僕のプリンだぞ…。」

ワリオ「知らねーよ、冷蔵庫に入ってたんだから誰が食べてもいい
だろうが。つーか買ってくれb」

ヨッシー「コロスコロスコロスコロスコロス…。」

ワリオ「!?!」

そのころ、庭。

オリマー「いやあ、立派な花が咲いたなあ。なあピクミン?」

ピクミン達「ピクミン。」

ドガシャアアアン!!

オリマー「!?!」

ピクミン達「!?!」

建物のほうからボロボロのワリオが飛び出てきた!

そしてオリマー達のいるところの(オリマーから見て)左斜め後ろに転がった。

ワリオ「あ…が…。」

オリマー「ワリオさん!?!」

ズダンッ!

オリマー「!?!」

ピクミン達「!?!」

ヨッシーが近くに降りてきた。

ヨッシー「チエストオオオオー!!」

ドゴオオオツー!!

ワリオ「ムワアアアアア!!」

ヨッシーはワリオをおもいつきり蹴り飛ばした!

ヨッシー「ふんんん!!」

そしてワリオに向かってボム兵を投げた!

／デデーン＼

オリマー「…エグい…。」

ピクミン達「…。」ガクブルガクブル

番外編 ヨッシーさん（後書き）

思いついた小ネタはこれに書くことにしました。

第10回(前書き)

紀葉「世間はさあ…冷てえよなあ…。」
ドンキー「俺についてこい！」

第10回

紀葉「記念すべき(?) 第10回だ!」

ドンキー「もう10回か…早いもんだな…。」

紀葉「特に特別なことやるわけじゃないですけどね。まあサクサク行こう。」

ドンキー「そうだな。」

紀葉「まずは阪神虎之介さんから私とドンキーと作者に質問。」

ドンキー「ほう。」

紀葉「男子校と女子校で同日に文化祭が行われることになりました。好きなほうに行けるとしたらどっちに行く?」

ドンキー「俺は男子校だな。男子校のほうが気楽だし。」

紀葉「私も男子校。男子校のほうが面白そうだから。作者も男子校らしい。男子のほうがいいからだって。」

ドンキー「ノリってww」

紀葉「ノリだよ。じゃあ次。しらさんからルイージに質問。」

ドンキー「ルイージにか。」

紀葉「逃走中で逃走成功したら何に使う？ただし、貯金以外で。」

ドンキー「ルイージに聞いてきたら『貯金以外か…だったら何か高級なものでも食べようかな。』らしいぞ。」

紀葉「実につまらない…。」

ドンキー「全くだ。」

紀葉「次。izumiさんから私とドンキーに3つ質問。」

ドンキー「うい。」

紀葉「1つ目。他の作者さんのオリキャラで一番会いたい人は？」

ドンキー「えー…わからん。というか他の作者さんのところでそのオリキャラ見たことないよな。」

紀葉「そうなんだよね…てか気にしたことないし…。」

ドンキー「まあしいて言うなら俺も紀葉も作者さんに会いたいよな。」

紀葉「そうだね。じゃあ2つ目。銀髪の人と言われて誰を思い出す？」

ドンキー「銀髪？うーん…爺ちゃん…は白髪か…じゃあいない。」

紀葉「爺ちゃんてWWW私だったらBLEACHの日番谷かな。日番谷といえば、日離最高。」

ドンキー「話がずれるからやめてくれ…。」

紀葉「しょうがねーなあ…。じゃあ3つ目。太鼓の達人をやってる人が『一緒に鬼やろう』と言ってきました。どうする?」

ドンキー「あー…俺だったら断る。」

紀葉「なんだよ…自信ないのか?」

ドンキー「いや、壊しそうだから。」

紀葉「たwしwかwにw…まあ私ならもちろん引き受けるよ。太鼓の達人は得意だから。」

ドンキー「どのくらい?」

紀葉「きたさいたま2000フルコン余裕ですが何か?」

ドンキー「廃人www」

紀葉「うるせーよwww」

バリーン!!

2人「!?!」

ゴロゴロ

紀葉「お…お前は…。」

ドンキー「馬鹿な…何故お前が…。」

デイディー「そういう中2的なノリは要らないよ!」

紀葉「いやWWWだってWWW」

ドンキー「なんでお前なのWWW普通ここはWWW作者たるWWW」

デイディー「実は2人に言いたいことが…。」

紀葉「え?」

デイディー「もうあれはビックリしたよW」

ドンキー「なんだよ?早く話せよ。」

デイディー「聞いて驚かないですよ…。」

2人「うん。」

デイディー「ランキーが人形相手にタイニーに告る練習してたWWW」

ドンキー「(。(。」

紀葉「デイディー、その話kws k」

デイディー「カワサキ?」

紀葉「詳しく！今すぐ！」

デイディー「ああハイハイ、えーと」

ランキー「おいデイディー、お前何やってんねん。」

デイディー「！！！！！」

紀葉「あ、ランキーだ。」

ドンキー「なんというタイミング…。」

ランキー「収録中に入ったらダメやる。」

ドンキー「いや、お前もだぞ？」

ランキー「おおすまんなドンキー。ほな帰るで、デイディー。」

紀葉「あーランキー、ちよつといい？」

ランキー「ん？なんや？」

紀葉「人形相手にタイニーに告る練習してたってホント？」

ドンキー「(。(。」

デイディー「(。(。」

ランキー「…それ誰から聞いたんや、おい。」

紀葉「デイディーから。」

デイディー「(^ ^ ^)」

ランキー「(^ ^ ^)」

デイディー「()() (^ ^ ^)」

ランキー「(^ ^ ^)」

デイディー「いや…あの…」ね」

ランキー「おもてでる」

デイディー「あー…。。。」ズルズル

ドンキー「ご愁傷様…てか紀葉wwおいww」

紀葉「てへぺろwww」

<ゴツドハンドクラッシュャー!

<ウボアー!

ドンキー「…。」

紀葉「(^ ^ ^)時間だお。」

ドンキー「…そうか。」

紀葉「こんなカオスですが、これからもよろしくお願いします！」

第10回(後書き)

タイニー「あの…。」

チャンキー「どうもウツホ。」

紀葉「あ、タイニーとチャンキー。」

ドンキー「お前らも来てたのかよ…。」

タイニー「入るタイミング逃しちゃって…。」

チャンキー「(´・`・´)ウツホ…。」

第11回(前書き)

紀葉「お前はトマトか？」

ドンキー「俺はポテトだ！」

第11回

紀葉「これ結構好評だよな。」

ドンキー「確かに…最初はすぐ終わるだろうなって思ったのにな。」

紀葉「今回も質問に答えるお (^ ^)」

ドンキー「おう。」

紀葉「まずは阪神虎之介さんから私とドンキーと作者に質問。」

ドンキー「うんうん。」

紀葉「男子校ってどんなイメージ？」

ドンキー「うーん…全員女子に免疫がなさそうだよな…。」

紀葉「あー、そうかもね。私としては部活動が活発っていうイメージがあるなあ。あと頭が悪いとか。」

ドンキー「全国の頭いい男子に謝れくらwww」

紀葉「夜神月さんサーセンwww」

ドンキー「おまwww」

紀葉「作者は『男子って基本ノリがいいから行事のときとか面白そうだよな。実際私の学校の文化祭とか体育祭のとき男子の先輩が面

白いことになってたｗｗ』と。」

ドンキー「どういつぶつに面白かったんだ？」

紀葉「さあ…？まあ次行こう。黄昏（ＴＬ）さんから私に質問。」

ドンキー「お、紀葉にか。」

紀葉「ランキーに喧嘩で勝てる自信ある？」

ドンキー「…どう思うんだ？」

紀葉「無理ｗｗ」

ドンキー「ですよねｗｗ」

紀葉「じゃあ次。黄昏（ＴＬ）さんからランキーに一言。」

ドンキー「一言っ。」

紀葉「『かつこよくて強いですね。』だって。」

ドンキー「あー…ああ…。」

紀葉「ランキーどういつ反応してた？」

ドンキー「えーつと…『え、そうか？そうでもないと思うっで。』つて。ちよつと嬉しそうだったけどリアクションは薄かったな。」

紀葉「そうなの？じゃあタィ」

ドンキー「シーツ！言うな！」

紀葉「ああ…うんわかったよ。」（必死だなw）「そんじゃ次。黄昏（TL）さんからドンキーとデイディーとカービィに質問。」

ドンキー「俺とデイディーと…カービィ？」

紀葉「ランキーに殺されかけた時どう思った？」

ドンキー「そういうことかwww」

紀葉「そういうことです。」

ドンキー「あの時のランキーはなんというか…怖かった。」

紀葉「え、それだけ？」

ドンキー「あんまり変なことは言えないだろ。」

紀葉「あ…なるほどね。」

ドンキー「デイディーに聞いたら『あの時のランキーの顔が般若に見えた…』って。」

紀葉「そんなにかwww」

ドンキー「あとカービィは『マリオ以外に普通に負けたのは初めてだよ…』らしい。」

紀葉「え、じゃあランキーすごくな?」

ドンキー「普段はまあ普通なんだが…怒ると…うん…」

紀葉「例えるならどれくらい?」

ドンキー「マリオと同じくらい…いや、マリオより強いかも…」

紀葉「強すぎワロタwww」

ドンキー「強すぎワロエナイ…」

紀葉「じゃあ次。izumiさんから私とドンキーに質問。」

ドンキー「ふい。」

紀葉「旅行に行くならどこに行きたい?ドンキーは行ってみたい世界な。」

ドンキー「あーなるほど。じゃあカービィの世界に行ってみたいな。」

紀葉「ほう。理由とかある?」

ドンキー「のどかでリラックスできそうだから。」

紀葉「確かに事件とか起きなければね。私は秋葉原だな。」

ドンキー「なんで?」

紀葉「だってオタクの聖地じゃないか！憧れなんだよ！」

ドンキー「あー…そっすか…。」

紀葉「うし。次。竜斗さんから作者に2つ質問。」

ドンキー「なんか作者単体への質問久しぶりな気が…。」

紀葉「1つ目。竜斗さんのところの逃走中で残りは女性だけだが、誰を応援する？」

ドンキー「ほうほう。」

紀葉「作者のコメント。『もちろん全員です。誰か1人って言われたらなのはです。』」

ドンキー「…なんで？」

紀葉「唯一わかるキャラだからだろ。2つ目。竜斗さんのところの逃走中で男性陣が全滅したときマジでどう思った？」

ドンキー「全滅ってWWW」

紀葉「作者のコメント。『だわらWしWねえWWWと思いましたがWWW』と。」

ドンキー「女に負けたらダメだろW」

紀葉「全くだWあ、時間。」

ド
ンキー」」お。お。」

紀葉「じゃあ今回はこれで。シューー！」

第11回（後書き）

そのころ。

デイクシー「ねえねえ、タイニー。」

タイニー「ん、なに？」

デイクシー「タイニーもランキーに言ってきたら？かっこよくて強
いって。」

タイニー「ええっ！？恥ずかしいよ。。。／＼／」

デイクシー「言ってくればいいのに。」

チャンキー「ランキー、ランキー。」

ランキー「なんやねん？」

チャンキー「タイニーにも言われたらいいね、かっこいいって、ウ
ツホ。」

ランキー「やかましいわ！／＼／」

第12回(前書き)

紀葉「救いは無いんですか!？」

ドンキー「無いね。」

何かあったわけではないです。

第12回

紀葉「フヒヒwwかわゆいのうwwかわゆいのうww」

ドンキー「カメラ回ってるぞ…。」

紀葉「あつ、やべっ！」

ドンキー「てか何読んでたんだ？」

紀葉「察せよ…。よし、質問に答えるぞ。」

ドンキー「おう。」

紀葉「りゅーとさんから…質問というかメッセージかな。」

ドンキー「え…な、なんて？」

紀葉「ビクビクすんなwwwえーと、この前のパピコ語の意味だが…『あなたはゲイですか？ホモですか？』」

ドンキー「…。」

紀葉「…ディディーに伝えてきた？」

ドンキー「…おう。そしたら『ほぼ同じ意味じゃん！分ける意味ないじゃん！そしてオイラはゲイでもホモでもない！ノーマル！断じてノーマル！』というかディクシーしか愛さないよオイラは！』って…。」

紀葉「デレデレですなあ W W W W」

ドンキー「うざいくらいにな。。。」

紀葉「あとカービイが適当に答えたやつは『いいえ、私は防虫剤1つで戦争を起こしました。』っていう意味になるらしい。」

ドンキー「どういう状況なんだ W W」

紀葉「カービイはどんな反応を？」

ドンキー「えーと…『そういう意味になるんだ…。多分あれだね。国でたった1つの防虫剤を使ってしまった。』とか言ってた。」

紀葉「どこういう発想だ W W…まあいいや。あとこの前のタブーの写真はネスが撮ったらしいよ。」

ドンキー「ネス天才じゃねーか W W W」

紀葉「ホントだよ W Wそれからドンキーにメッセージがあるぞ。」

ドンキー「なんだ？」

紀葉「名前聞いて拒絶反応起こしてんじゃねーよ W W W Wって。」

ドンキー「いやだって…りゅーとさんって俺だけが疲れる質問してくるじゃねーか！」

紀葉「拒絶反応起こすのはダメだろ。」

ドンキー「いやでも…。」

紀葉「ゲームウオさん呼ぶぞ。」

ドンキー「やめてマジやめて勘弁してごめんなさいホントごめんなさい。」（早口）

紀葉「ぶぶっwwwwww」

ドンキー「笑うな！」

紀葉「サーセンwwwwでも今度から気をつけるよ？」

ドンキー「わかったよ…。」

紀葉「じゃあ次は、りゅーとさんのところのキャラ、PN：星狼の
Oどねるさんからメッセージとお願いだ。」

ドンキー「ウルフじゃねーかwwww」

紀葉「『この間の質問に乗ってくれてありがとうございます。あと、
一部の人は恥ずかしい質問や言えない質問を出す事がありますので、
察した方がいいですよ。（俺だってケーキの質問は恥ずかしいし…。
）』」

ドンキー「え…あ…その…なんかごめん…うん…。」

紀葉「正直…すまんかった…。」

ドンキー「えーつと…それでお願いは？」

紀葉「んーとね…」もう一つお願いがありますけどよろしいでしょうか？これは私と仲のいい人と一緒に過ごしていた時に撮影した写真です。ちなみにこの写真を撮ったのは私の友人のPでした。本当に私を含めて3人だけでした。関係があると嫌ですので写真の鑑定とお祓いをお願いします。』」

ドンキー「Pってプリンか？」

紀葉「タブンネ。で、これが問題の写真。」

投稿者がねこじゃらしを使って緑色の服を着た猫目の少年と遊ぶ場面。ねこじゃらしで遊ぶ少年は可愛らしく、誰が見ても和むもの。しかし、少年の背後にはタブーの顔に手足が生えた化け物が接近中…。しかも、その化け物の足には犬のウンコが…。

ドンキー「化け物超きめえwwwwww」

紀葉「これはきつと、犬のウンコを踏んでしまった悲しみを他の人になすりつける妖怪、タブーが写ったんですね。ドンキー、ゲームウオさんに連絡しておいて。」

ドンキー「ok。」

紀葉「じゃあ次。阪神虎之介さんからドンキーに2つ質問。」

ドンキー「よしてきた。」

紀葉「1つ目。海に叫べと言われたら何叫ぶ？」

ドンキー「そつだな…じゃあ『人気よこせ!』って…。」

紀葉「…。」

ドンキー「…。」

紀葉「(´・`・´)」

ドンキー「(´・`・´)」

紀葉「…次行こうか。」

ドンキー「…おう。」

紀葉「2つ目。山派?海派?」

ドンキー「どっちも好きだが山派。」

紀葉「森だから?」

ドンキー「そう。やっぱり木に囲まれてるほづが落ち着く。」

紀葉「やっぱり猿だな…じゃあ次。阪神虎之介さんから私に質問。」

ドンキー「ほづ。」

紀葉「一番行きたいアニメの世界は?」

ドンキー「アニメ限定か…。」

紀葉「遊戯王の世界かな。髪型すごい人はどうやってキープしてるのか気になる。」

ドンキー「なんだその理由ww」

紀葉「いいじゃん、すごいじゃん、さかいじゃん〜。」

ドンキー「それ前も言ってたろw」

紀葉「気にすんな。次、しらさんからドンキーに質問。」

ドンキー「はあ。」

紀葉「毎日バナナ一房貰う権利と毎日千円貰う権利ならどっち欲しい?」

ドンキー「バナナ!」

紀葉「即答www」

ドンキー「バナナあれば生きていけるからな。リアルに。」

紀葉「まあそうだけどwwあ、時間。」

ドンキー「もうか。」

紀葉「それじゃあみなさん、ごきげんよう!」

第12回（後書き）

そのあと。

ヨッシー「ドンキーさん、人気よこせって言ったからって人気が
るわけじゃないですよ。」

ドンキー「お前には俺の気持ちは分かんないだろ…。」

ヨッシー「まあ分かんないですけど。」

ドンキー「嘘でも分かるって言えよ！」

第13回(前書き)

紀葉「作者ってリアルに鼻から牛乳出したことあるらしいよ。」
ドンキー「マジで?」

第13回

紀葉「zzz…。」

ドンキー「寝んなwww」

紀葉「ハッ!?…質問答えるか。」

ドンキー「へいへい。」

紀葉「えーと…竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「竜斗さんっていつも作者にだけ質問するよな…。」

紀葉「別にいいだろ。えーと…嫌いな言葉は何?」

ドンキー「嫌いな言葉か…。」

紀葉「作者のコメント。『勉強しろ。です。』」

ドンキー「学生がそんなこと言っているのかww」

紀葉「いや、学生だからだろ。毎日勉強で嫌になる…勉強してるのに言われると腹が立つ…遊びたいのに遊べない…強要されると嫌だし…だから嫌いなんだよ。私もそうだ。」

ドンキー「あ…その…うんげめん…。」

紀葉「別にいいさ。次、りゅーとさんからゲームウォさんに質問。」

ドンキー「ゲームウオさん小説に出てきてないけどいいのかな？」

紀葉「りゅーとさんのところの小説の感想で一応出てきたからいいだろ。」

ドンキー「えー…。」

紀葉「スマブラに出るときはペラペラのまま？立体にしてもらった？」

ドンキー「…いや、もともと立体だぞ。」

紀葉「えっ。」

俺設定（ry

ドンキー「マスターの話によるともともといた世界（ゲーム&ウオッチ）ではペラペラだったらしい。ゲームウオさんは覚えてないみたいだが…。」

紀葉「…なんかややこしい話になりそうだな。」

ドンキー「じゃあこの話はやめとくか。」

紀葉「うん。次りゅーとさんからのメッセージだ。ゲームウオさんあて。」

ドンキー「ふむ。」

紀葉「『こちらの逃走中では強制失格の時に変な風にしていってすみません。でも、ウオッチの場合はすごい軽い方です。酷いのはレッドのように八工叩き、もっと酷い場合は…。気になる場合は本編をお楽しみにwww』」

ドンキー「首ねっこつかまれて牢獄に連れて行かれたんだよな。」

紀葉「羞恥プレイだよね…なんて言ってた？」

ドンキー「『別に大丈夫だよ。こつちの話じゃないし。ポケットレ八工叩きされたの？多分ペシャンコだね。もっと酷いのって、ミンチとか？気になるから、ボクもりゅーとさんの逃走中読むよ！』って。」

紀葉「以外とエグいこと言うね…。」

ドンキー「ゲームウオさん、そういう人なんだよ。」

紀葉「まあ次…。…っ!？」

ドンキー「どした？」

紀葉「読めないっ!!マジで!!」

ドンキー「どれどれ…もはや何？」

紀葉「ゲームウオさんはなんて…?」

ドンキー「『日本語でおくだよ。マジで。』と。」

紀葉「ですよね…。」

ドンキー「もう次行こうぜ…。」

紀葉「うん…りゅーとさんからこの写真の感想をと。ゲームウオさんに。」

パ ユームの格好をしているファルコンとガノンとスネークの写真。

ドンキー「うわっ…キモッ…。」

紀葉「おぼろしゃあああああ…!」

ドンキー「吐wくwなw」

紀葉「うぷ…ゲームウオさんは…。」

ドンキー「『実に気持ち悪い!後で潰す!』って。」

紀葉「りゅーとさんのところのファルコン達に死亡フラグが…。」

ドンキー「ほっとこうぜ…。」

紀葉「そうだね…次はりゅーとさんのところのキャラ、PN…猫目勇者さんから私とドンキーに質問。」

ドンキー「トウーンだな。このPNは。」

紀葉「『この間の質問に答えてくれてありがとうございます…うにやーん。質問いいですか?』どーじんし「って何ですか?それは」

NL」や「大きい人向け」ってありますけど、「BL」というのが一番人気と聞いたの。でも、内容が分からないのでリンクとウルフとピーチに聞いたら、リンクとウルフは洗っていたお皿を全部落とし、ピーチは笑顔で薄い本を持ってきました。それが「どーじんし」と分かり、読もうとしたら二人が全力で止めて、結局は知る事が出来なかったの…。ドンキーと紀葉さん、「どーじんし」と「BL」について詳しく教えてください！」

ドンキー「。。。）」

紀葉「おk！私が説明しよ」

ドンキー「何聞いてくるんだトゥーンンン！馬鹿！この馬鹿！」

紀葉「おい、言わせるよ。」

ドンキー「言うなゴルア！何子供に悪影響与えようとしてんだよ！」

紀葉「悪影響じゃねーし意味わかんねーしハア？」

ドンキー「とにかくダメ！ゼツタイ！」

紀葉「。。。言いたいお。。。」

ドンキー「絶対ダメだ！」

紀葉「わかったよ…次、メッセージ。」

ドンキー「…ん？なにか嫌な予感が…。」

紀葉「『ちなみにリンクとウルフは「ちょっと紀葉さんに少し早いクリスマスプレゼントがあるんだ」と笑顔で武器とスマッシュボールを持ってどこかに行ったの。たぶん、二人は質問に答える紀葉さんに差し入れを持って行くと思います！紀葉さん、二人に会ったらクリスマスプレゼントを受け取ってください！』」

ドンキー「…死亡フラグ立ってるぞ…。」

紀葉「その幻想をぶち壊す！」

ドンキー「どうやって…。」

紀葉「まずは百合さんに電話だ。」

ドンキー「えっ?」

紀葉「もしもし、百合さん?」

百合「あら紀葉!どうしたの?」

紀葉「実はかくかくしかじかかってなわけ…。」

百合「わかったわ、そいつらをぶちのめせばいいのね?」

紀葉「殺さないでね?」

百合「特殊部隊に連絡しておくわ。ついでに紀葉にも護衛つけとくから。」

紀葉「殺さないでね?」

百合『大丈夫よ、あたしに任せなさい。』

紀葉「じゃあ頼みます。」

百合『はいはい』ピッ

紀葉「これでよし。」

ドンキー「…人間じゃ勝てないと思うぞ。」

紀葉「大丈夫だ、問題ない。百合さんのところの特殊部隊はなんかもうすごいから。」

ドンキー「例えるなら？」

紀葉「ゲムウオさんと同じくらい。リアルに。」

ドンキー「じゃあ大丈夫かな…。」

紀葉「平気だよ。んで時間。」

ドンキー「あ。」

紀葉「ちゃんと次回も私は出ますからねー。」

第13回(後書き)

特殊部隊の強さ、ホントにゲムウォさんレベルです。
百合パネエWWW

第14回(前書き)

紀葉「最近作者は抹茶にはまってるらしい。」
ドンキー「抹茶ラテ美味しいよな。」

第14回

紀葉「フラグ回避成功。」

ドンキー「マジで!?!」

紀葉「だからここにいるんじゃないか。」

ドンキー「あーそうか…。」

紀葉「じゃあ行くぞ。黄昏(TL)さんからドンキーに質問。」

ドンキー「おう。」

紀葉「一本1000円の高級バナナと普通にスーパーで売ってるバナナ、どっち買う?」

ドンキー「うむむ…どっちのほうがいいんだろ…。」

紀葉「安いとたくさん食べられるからなあ…腹の減り具合によるんじゃないか?」

ドンキー「ああ、うん、そうだな。」

紀葉「んじゃ次。無幻さんからドンキーに質問。」

ドンキー「お、また俺か。」

紀葉「バナナとキャンディー、どっちが大切?」

ドンキー「あー…キャンディー。仲間だからな。」

紀葉「恋愛感情は…。」

ドンキー「無い。」

紀葉「ナエルーワ…。」

ドンキー「知らんがな。」

紀葉「萎えたからなんか萌える話してくれよ…。」

ドンキー「えー？やだよ。こっちが嫌な気分」

紀葉「殺すぞ。」

ドンキー「…冗談です…。あー…ディディーとディクシーって見るといつつも手つないでるんだよ。」

紀葉「モエルーワ！」

ドンキー「満足したか？」

紀葉「みWなWぎWつWてWきWたW」

ドンキー「…早く次行けよ。」

紀葉「はいよー。MR・ホースさんからドンキーと作者に質問。」

ドンキー「ほう。」

紀葉「次のスマブラのステージに出てきそうなポケモンBWの場所
は？」

ドンキー「…イッシュ地方は分らん。第5世代がスマブラメンバ
ーにいないし…。」

紀葉「なるほど。作者は『バトルレインとかどっすかね？たまに
ドアが開いて技がなだれ込んでくるとか。』って言った。」

ドンキー「なんだその鬼畜ステージWWW」

紀葉「思いつかなかったんだろ。」

ドンキー「あ、そうか。」

紀葉「そんじゃ次。しらさんからドンキーに質問。」

ドンキー「今回俺への質問多いな…。」

紀葉「一秒一円の価格でバナナ食べ放題。使う？」

ドンキー「使うー！」

紀葉「だろうな…。」

ドンキー「なんかお得じゃね？」

紀葉「どうなのかな…そっぴや作者がさ…。」

ドンキー「ん？」

紀葉「たるジエットのキャラ全員出したって。」

ドンキー「…早くね？」

紀葉「ヒーロークラスはまだみただけ。」

ドンキー「そうか…。」

紀葉「ロイヤルカップはタイニーで優勝したって。」

ドンキー「おい！俺使えよ作者！」

紀葉「作者曰わく、ドンキーはいろんなゲームに出てるけどランキーとかタイニーは出てるゲーム少ないから使つといた方がいいって。」

ドンキー「なんじゃそりゃ…。」

紀葉「ちょっと早いけどもう終わるか。」

ドンキー「へいへい…。」

紀葉「それじゃあ読者のみなさん、ばいちゃ！」

第14回(後書き)

最近他の小説の執筆が遅くてごめんなさい。

第15回(前書き)

紀葉「ヤロー許さないッピー！」
ドンキー「ギエピーー！」

第15回

紀葉「作者が包丁で指切ったって。」

ドンキー「なんだそのいらぬニューズ…てか何作ってたんだ？」

紀葉「りんごの芯取ろうとして切ったらしい。」

ドンキー「不器用だな！」

紀葉「お前が言うな。」

ドンキー「オマエモナー。」

紀葉「うるせえよ。つかコングファミリーで料理できる奴いんの？」

ドンキー「ランキーとタイニーはできるぞ。」

紀葉「あ、そうなんだ…。質問答えるか…。」

ドンキー「うい。」

紀葉「izumiさんから私とドンキーに2つ質問。」

ドンキー「ふい。」

紀葉「1つ目。逃走中にでていて、あと一分という時にハンター一
万体に囲まれた。どうする？」

ドンキー「どうかして逃げる！」

紀葉「諦める。」

ドンキー「諦めんなよお……。」

紀葉「お前……私の体力でそこから逃げられると思っているのか!？」

ドンキー「知らんがな。」

紀葉「知れっ!?!」

ドンキー「だが断る。」

紀葉「……2つ目。逃走中に出てみたい舞台は？」

ドンキー「ここでやったら面白そうとかそういうことか?」

紀葉「そういうことでいいんじゃない?」

ドンキー「うーん……童話の国……だっけ?あそこ面白そうだな。」

紀葉「あー……あれね……。確かに面白そうだな。でも江戸の町とかも面白そうじゃね?私は江戸の町行きたい。」

ドンキー「登場人物分かんねえよ……。」

紀葉「そこかよ……。まあ次。しらさんから私とドンキーに質問。」

ドンキー「ほづ。」

紀葉「 中の出演依頼出したら出る？」

ドンキー「もちろんっすよしらさん！むしろ出たい！」

紀葉「私も出たいです！けど…。」

ドンキー「けど？」

紀葉「多分賞金貰えない…。」

ドンキー「そこは重要じゃないだろ。」

紀葉「んー…そうだよね！出ることが重要だよね！」

ドンキー「そうそう。」

紀葉「よし、次！しらさんから作者に質問。」

ドンキー「作者にもか。」

紀葉「新しい 中ない？」

ドンキー「…考えてあるのか？」

紀葉「作者のメモがここに。」

運搬中

ラウンドごとに指定されたものを指定された場所に運ぶ。

ラウンドが進むことに運ぶものが重くなる。

ドンキー「説明適当じゃねーか！」

紀葉「思いつきだろ、完全に。」

ドンキー「いいのかこれで…。」

紀葉「しょうがないだろ…。次。竜斗さんから作者に質問。」

ドンキー「ほう。」

紀葉「何故逃走中を書かないと決めている？」

ドンキー「ああ、なんか感想のほうで言ってたな。」

紀葉「作者曰わく…。」

- ・キャラが他の人と被る
- ・舞台が思いつかない
- ・賞金の計算ができない
- ・気力がもたない
- ・ネタがすぐ切れる

紀葉「これらが理由らしい。」

ドンキー「確かに書かせたら大変なことになりそうだな…。」

紀葉「文才もないしな。」

ドンキー「どうしたもんか…。」

紀葉「もう終わろう。今日はもう質問ないし。」

ドンキー「そうだな…。」

紀葉「それじゃあ、バイバイキーン！」

第15回(後書き)

□□□□好きです。

第16回(前書き)

紀葉「ここは…コアで一服。
ドンキー」すなーっ!」

第16回

紀葉「私だ。」

ドンキー「お前だったのか。」

紀葉「また騙されたな。」

ドンキー「全く気づかなかった。」

紀葉「暇を持て余した。」

ドンキー「神々の。」

2人「遊び。」

紀葉「よし行くか。」

ドンキー「ハイハイ。」

紀葉「ハイは一回!」

ドンキー「ハイ。」

紀葉「伸ばすなっ!」

ドンキー「ハイ。」

紀葉「おk、行くぞ。」

ドンキー「今さらだがめんどくさい奴…。」

紀葉「りゅーとさんからー…色々。」

ドンキー「色々!?!」

紀葉「色々だよ。まずはこないだの郵便語の意味だ。」

ドンキー「あれか…。」

紀葉「『けつから焼きそばが出てきて大変な事になりました。ウオツチさん、助けてください。ちなみに出た焼きそばは塩焼きそばでベースはシーフードです。質問ですけど、ウオツチさんはけつから焼きそばを出した事ってありますか?』」

ドンキー「うん、相変わらずおかしい。」

紀葉「ゲムウオさんはなんて?」

ドンキー「『出し切って捨てたほうがいいよ。汚いから。あとけつから焼きそばってどうやったら出るの?出したくないけど。』って。」

紀葉「でんじゃらすじーさんではよくあることです。」

ドンキー「他のとこじゃあつたら大変だけどな。」

紀葉「まっ、次行こ。スマブラメンバーに質問あるみたいだよ。」

ドンキー「スマブラメンバーに？」

紀葉「パピコ語を読める人いる？」

ドンキー「いない。念のため全員に確認したが全員読めない。」

紀葉「そうか。じゃあドンキーとデイディーとついでにランキーに質問。」

ドンキー「ランキーついでかよ…。」

紀葉「papikopapikopa-pikkopapipap
ipapikkoo-?」

ドンキー「まさかの新パターン!? 読みづらいからカタカナに直してくれ…。」

紀葉「パピコパピコパーピツコパピパピツコー？」

ドンキー「まあどっちにしろわかんないけどな。」

紀葉「デイディーはなんて？」

ドンキー「デイディーは『またか! いい加減にしろよもー! なんだってんだよー!』って。」

紀葉「ノリ悪い奴…。」

ドンキー「お前が良すぎるんだよww」

紀葉「サーセンwwwwんで、ランキーは？」

ドンキー「ランキーは『…は？…えーと…パピコパピッコパピパピパピコパピッコパピコ。…これでええんか？』って。」

紀葉「ランキーはノリ良いねー。」

ドンキー「律儀って言ったほうが正しいと思う。あと身内に言われたらど突くと思うぞ。」

紀葉「タイニー以外？」

ドンキー「あ、ちょっとランキーにボコすのはやめといたほうがいって言っとくわ。」

紀葉「だよね、タイニー以外だよね。愛している人をど突k」

ドンキー「早く次行け！」

紀葉「ちえっ。そういえばりゅーとさんからディディーへの差し入れもってった？」

ドンキー「あああれか？バナナ味の猿用クッキーに見せかけた金魚の餌ww」

紀葉「どういう反応してた？wwww」

ドンキー「それは番外編で。長いから。」

紀葉「そっか。じゃあ次、黄昏(TL)さんからコングファミリー

と作者と私に質問。」

ドンキー「ファミリーにか……。」「

紀葉「お祭りに行き、目の前にチョコバナナと普通のバナナが売っていたらどっち買っ？」「

ドンキー「コングファミリーは俺も含めて全員チョコバナナだ。」「

紀葉「普通のバナナはいつでも食べれるから？」「

ドンキー「その通りだ。」「

紀葉「フーン。私と作者もチョコバナナだよ。お祭りといえばチョコバナナだし。」「

ドンキー「そーなのカー？」「

紀葉「タブンネ。次、MR・ホースさんから作者とドンキーに質問。」

ドンキー「おう。」「

紀葉「東日本大震災で被災した人達に笑顔になってもらっ為にジャングル産のバナナを送ってあげたいですか？」「

ドンキー「それで少しでも元気を出せるなら、いくらでも送るよ。」「

紀葉「そう、か……。」「

ドンキー「作者はなんて言ってた？」

紀葉「…作者には聞いてない。」

ドンキー「…え？」

紀葉「今回の地震で作者の親戚が、さ…。だから聞かないほうがいいかなって…。」

ドンキー「…そうか…。」

紀葉「でも、同じ東北の人間として、宮城の人達には希望を失ってほしくない…。そういう風に考えているだろう。だからきっと、もちろんって答えると思う。」

ドンキー「…また生き生きと宮城の人達が暮らしていけるようになるよな？」

紀葉「絶対に。希望はあるよ。」

ドンキー「そうだな。…そろそろ時間だ。」

紀葉「ああ。…みなさんも一緒に、頑張りましょう。」

第16回(後書き)

最初らへんと最後のテンションの差…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8862y/>

色々雑談部屋

2011年12月11日00時47分発行